

医療法人社団永生会 永生病院

看護師長 安川 早小女

永生病院におけるコロナへの取り組みと今後の課題について

1. 永生会永生病院の概要

当院は東京都の西部に位置する八王子市にあります。当院は医療・介護を通じた

「街づくり・人づくり・思い出づくり」を理念とした地域に根差した病院です。

法人内の病院の病床数は923床あり

永生病院ではそのうちの548床を有した

ケアミックス型の病院です。

昨年末より院内でのコロナ発生に伴い、当院で取り組んだ経過と対応について報告いたします。



2. 永生病院におけるコロナ発生と対応と経過の概要

コロナの患者の受け入れについては、法人内の急性期病院である南多摩病院にて行い、当院ではポストコロナ患者の受け入れを行っていました。

当院におけるコロナの初発は2020年11月30日に介護保険病棟勤務の非常勤看護師でした。その後、休憩室で一緒に食事をした職員4名の内3名が陽性となりました。また同病棟での患者一斉検査では3名の患者が陽性と判明し南多摩病院へ転院しましたが、すでに病床はひっ迫しており、これ以上の発生があった場合には自院で管理をするようにと保健所からも指示がありました。その後、発熱患者が数名あり、再度PCR検査を実施したところ陽性となり、12月7～9日の間に陽性患者は11名となりました。患者数増加に伴い同病棟内でゾーニングを実施し、感染者の対応を院内で行うことになりました。その他3つの病棟からも陽性者が判明し、最大時は17名の患者を診ていました。

これら感染拡大を防ぐため法人内での感染対策本部が立ち上がり、毎日の会議での感染状況の把握に加えてICT会議も毎日実施しました。速やかな情報共有と勉強会の開催やラウンドを実施し、標準予防策の徹底の確認と環境設定を行いました。この結果、手指衛生の回数は11月3.6回から12月は19.8回まで大幅に改善することができました。

12月15日には八王子市保健所と東京都ICNの立ち入り調査もありました。

感染拡大の原因としては、面会禁止中であることから外部との接触もないため、職員からの接触感染が考えられるということでした。指導内容として①手指衛生の徹底②標準予防策の・PPE使用基準の周知徹底③環境整備④適切な物品購入⑤人員の配置の検討⑥環境設定などが挙げられました。

院内の患者の発生は1月1日が最終で、院内の規定としている20日の療養期間を、1月20日をもって終了し、院内発生の患者は0となりました。しかし、地域のコロナ患者受け入れ施設のひっ迫は更に増しているため、陽性エリアは存続させ、南多摩病院からトリアージされた陽性患者の受け入れを現在でも継続しています。職員も1月14日1名が最後の発生で、院内感染とは因果関係がないと判断され

ている。

3. 課題と対策

① 建物が老朽化しており 4~8 床の多床室が多く、感染症が発生した場合の濃厚接触者が多くなってしまう。

対策：現在改修プロジェクトが進行しており順次改修予定となっています。

② 休憩室での感染が発生

対策：休憩室は 3 名までしか入らないように休憩時間を調整。クリアパネルを設置し飛沫を防護。リンクスタッフによる週 1 回のラウンドで状況を適宜把握し指導をしています。

4. 今後の課題と対策

①引き続き手指衛生・標準予防策の徹底・環境消毒の徹底。ICTによる標準予防策の直接観察の実施をしています。

②病棟内でのゾーニングでは水回りの問題など使い勝手も悪く、現在介護医療院への切り替え予定で現在空いている建物にコロナ受け入れ病棟 28 床一般病棟として立ち上げ、東京都の感染者の増加に伴い、南多摩病院からのトリアージで院外からのコロナ陽性患者の受け入れも行っています。

